

平成29年度第4回松本市環境審議会 議事録

日 時： 平成30年2月8日（木）午前9時30分～午前10時30分

会 場： 松本市役所本庁舎3階 大会議室

内 容： 松本市災害廃棄物処理計画の策定に向けた今後の進め方について（協議）
松本市一般廃棄物処理計画（平成30年度～平成39年度版）（案）について（報告）
エコトピア山田の今後の在り方に関する検討について（報告）

出席者： （委員）野見山委員、金沢委員、茅野委員、宮崎委員、宮澤委員、田口委員、
山田委員、松澤委員、桐原委員、上條（公）委員、高村委員、
松山委員、村上（さ）委員、関澤委員、村上（真）委員
（事務局）土屋環境部長

〈環境政策課〉三沢課長、百瀬課長補佐、鈴木係長、
堀井技師、大野技師、永元主事、賜嘱託
〈環境保全課〉松田課長、徳永課長補佐、花村課長補佐
〈環境業務課〉百瀬課長、百瀬係長

欠席者： 藤森委員、倉澤委員、中澤委員、上條（直）委員、高橋委員

- 1 開 会 （司会：環境政策課長）
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事

（会長）それでは、早速議事に入りたいと思います。まず、(1)協議事項ア 松本市災害廃棄物処理計画の策定に向けた今後の進め方について、事務局よりご説明をお願いいたします。

議題1 松本市災害廃棄物処理計画の策定に向けた今後の進め方について（環境政策課）

（会長）ありがとうございました。ただ今のご説明になにかご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。基本的には今年度進めてきた一般廃棄物処理計画のメンバーで、年度を変えて新たにモデル事業として行うということです。特にご意見ないようでしたらこのような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。そうしましたらお認めいただいたということで、続きまして報告事項ですが、(2)報告事項ア 松本市一般廃棄物処理計画（平成30年度～平成39年度版）（案）について、事務局よりご説明をお願いいたします。

議題2 松本市一般廃棄物処理計画（平成30年度～平成39年度版）（案）について（環境政策課）

（会長）ありがとうございました。それでは、質問等ございましたらお願いいたします。
（委員）細かい表現のところなのですが、30ページで、リサイクル率についてはずっと議論してきましたので、ちょっと低いかなとは思いますが数値自体はしょうがないかなというのが前回までの結

論だったと思います。ただ30ページの(エ)リサイクル率の低下のところの文章表現ですが、「民間回収ボックスが増加してきて数値が下がっている」というのはいいと思います。ただ、「可燃ごみ等への混入の増加はあまりないと考えられます」という表現をしています。これはその通りなのかもしれませんが、やはりこのリサイクル率については、まだ可燃ごみから資源に回すことができないかという観点から改善していく余地があるわけです。そういったニュアンスも含められる表現にしてほしいなと思います。これだと悪くなっていないという言い方ですが、さらによくしていかなきゃいけない。リサイクル率については分母と分子の議論をずっとしてきたわけです。ですから、可燃ごみからさらに資源ごみを分別することができれば、分母が減るわけです。民間が回収しても分子も増やせる可能性もあるので、悪くなっていないという表現はあまりよくなくて、やはりさらに改善する必要があるというようなニュアンスの表現にしていきたいです。以上です。

(環境業務課) ありがとうございます。今までお話をいただいてきた中で、家庭系も事業系もということも含めまして、さらにとりようなところが反映できるように変えていきたいと思っています。

(会長) ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。概ね反映されているかと思っています。よろしいでしょうか。17日までパブリックコメントですので、何かご意見があればいただければと思います。今日の時点では特に問題なければこれで閉めさせていただきたいと思っています。どうもありがとうございます。すごいスピードで進んでおりますが、次に(2)報告事項イ エコトピア山田の今後の在り方に関する検討について、事務局よりご説明をお願いいたします。

議題3 エコトピア山田の今後の在り方に関する検討について (環境業務課)

(会長) どうもありがとうございました。何かご質問等ありましたらお願いいたします。

(委員) 一部新基準に照らし合わせると不透水性が甘い所があるということでしたが、エコトピア山田がある場所は糸魚川静岡構造線の東側、城山の北側で、地質的には噴出物が基本のところかと思えますので、新基準の不透水性を満たさない層はあるのかなと感想を持っています。新基準に合うようにするとすると、広い面積に相当の対応処置を検討しなければならないと思う。建設前にどれくらいまでの深さの地盤調査のデータがあるのか知りたいのですが、見せていただけるのですか。

(環境業務課) ありがとうございます。エコトピア山田は基準ができた昭和52年以前の昭和45年から埋め立てを開始した施設ですので、その当時のボーリングデータは残っていないと思います。今でしたら、昭和62年に拡張整備をした際に調査をして、平成28年度には構造物等安全確認検査を実施して、その後もモニタリング井戸の掘削、ガス抜き管の設置をして水質やガスの成分検査をしていますので、ご連絡いただければお示ししたいと思います。また、図面を見ていただきまして、一番左側に堰堤があり、その下流側に50メートルほどのモニタリング井戸を昨年設置しましたので、地下水の水質を調査できるようになっています。埋立地に浸みだした水はこの堰堤でためてポンプアップして下水に流すようにしており、地下には浸みださないようになっています。補足としまして、平成10年にダイオキシン類特別措置法ができた時に、区画としても問題になり、平成11年にクリーンセンターができましたので、飛灰と焼却灰の区画を分けて今の埋め立て方となっています。今後はエコトピア山田をどういった形で活用できるのか、また新たな方法があるのか、そういったことも含めまして、調査をして、資料を作って、庁内のありかた検討会で示していきたいということでございます。

(委員) ありがとうございます。報道等でご存知かと思いますが、塩尻市には塩尻峠を登る峠の近くに、民間の廃棄物処理場、現在は安定型ということですがありまして、その周辺の表面に出ている水の電気伝導度は田川の流域の水とは全然違って、電気伝導度が高い結果になっております。この処分場を管理型にしたいと説明会があったので、住民としてその説明の不備等を指摘しましたがけれど、

どうも民間業者は理解しないので、その地域の地質特性等をまとめて県に報告しております。ただ、県の資源循環推進課は、我々の出した報告書等に関しても、非常に腰が引けた形の説明会になりました。また、諏訪湖湖周地域の2市1町では、辰野町に隣接した地区に最終処分場を建設するという話がありまして、現在辰野町の住民と町長は反対をしております。一部でクローズド型にするから安全だとの報道がありましたが、クローズド型の手本である山形村のサンクスBBとは違う施設となるとの話も聞いています。松本市としては、ぜひ後世代に影響が無い施設として検討していただきたいと思っております。

(会長) ありがとうございます。非常に慎重に今進めていただいておりますが、また検討するということですのでよろしくお願いいたします。その他いかがでしょうか。

(委員) 質問意見がいくつかあります。まとめてお話ししたいと思います。今のお話ですとエコトピア山田を延命させようという議論が主体になっていますが、ここをやめて代替地をという議論があるのかどうか、ということがひとつ。それから、先ほど委員からも糸魚川静岡構造線の話が出ましたが、だいたいこういう施設は山の中に作られると思うのですが、今は見つかっていなくても活断層があることが非常に多いわけですね。糸魚川静岡構造線からは外れていますが、今も松本から長野を結んで千曲川断層系に続く延長線上に断層帯があるのではないかとということで、信州大学の先生方が調査をしている経過もあります。活断層が今どうなのかということと、今後見つかった場合どういう対応をしていくのかについてお聞きしたいのが2点目です。3点目ですが、図を見ますと混合埋立ごみとある部分がありますが、分別をあまりしなかった時代に色々なものを埋めていたと思うのですが、こういうところに何が埋まっていると考えられるのか、あるいは過去にそうやって分別しないで埋められたものを、例えばちょっと大変かもしれませんが改めて調査をしたり、場合によっては掘り起こして資源と分別したりというようなことは考えられるのかということです。あと先ほど観測井の話が出ましたが、昨年からの調査をしているということでしたので、今後データを蓄積させていかないとわからないと思うのですが、観測井のデータというのは今後公開されていくのか、その辺についてお聞きしたいと思います。以上4点です。

(環境業務課) ありがとうございます。まず、ほかの場所への移設ということですが、今回先ほどお話いたしました4月以降に在り方を検討していくための基礎調査の資料を作りますので、例えばエコトピア山田の延命がどういった形でできるかというのも一つだと思いますし、処分を全部委託していくというのも方法かもしれません。他にも新たな場所を検討していくのも一つかもしれませんし、考え方はいくつかあると思います。あとは技術的問題や費用面も伴ってきますし、地元の皆さんへの対応も含めて検討を行っていきたいと思います。なお、検討を行う際には専門的な団体に監修をいただくようお願いしております。断層については今まで調べてきた中で、一番下にはSSというかなり固い層が見られておりまして、若干弱い個所もあると先ほど説明したのですが、その10メートルくらい下には硬い岩盤があることも分かっております。新たに活断層などが発見されたらどうするかというのは今ここで答えはできないのですが、いずれにしても安全で安心な施設をつくっていくために対処していきたいと思っておりますのでご理解いただきたいと思います。それから過去に分別しないで埋められたものがどのようなものかは分かっていますが、減容していくかは、今回の在り方の調査の中で検討を行い、必要があれば進めていかなければなりません。しかし、減容をすれば焼却施設との関連も考えなければいけませんので、将来も見据えた中で進めていけるのかということも含めて考えていくということになると思います。

(委員) 私は前からエコトピア山田があと何年かということを中心に気にしていたのですが、9年だけれども場合によっては50年大丈夫かもということを知りまして、非常に楽観視していたのですが、今回エコトピア山田の在り方について報告を受けたところ、色々な問題があるのだなと改めて思いま

した。例えば集塵灰区画を利用するにしても不透水性はどうするんですかという問題も出てきますし、先ほど言ったように活断層の問題も出てくるわけで、結構難しいなと改めて感じております。もうひとつ、これから災害廃棄物の処理計画に参加するわけですが、いったん災害が起こったときに、どれくらい廃棄物が出て、それが通常の年の何倍くらいなのか、ある程度は分かっていると思うのですが、最終処理場というのは新しい代替地を見つけられない限りはエコトピア山田になってくる可能性がある。単に50年大丈夫ということだけではなくて、不透水性の問題も含めまして、処理できる体積も余裕を持って対処できるようにお願いしたいと思います。したがって、これは今まで議論してきたことなんですけど、ごみの量を減らすということも非常に大事になってくると思います。同時に最終処分物の量を減らしていくことが非常に重要になってくると思います。この前山梨の甲府の方に見学に行かせていただいたのですが、ガス化熔融炉というのは最終処分物が従来の焼却施設に比べて非常に少ないということをお聞きしました。こういったことも視野に入れて、最終的にごみの量を減らしていく、最終処分物としてのごみの量を減らしていくということが重要になってくると思いますので、特に災害廃棄物等も視野に入れた複合的な対策というのを総合的に考えていただきたいと思います。

(会長) ありがとうございます。その他ご意見ございますでしょうか。非常に大切な問題ですので、また今後も検討いただいた結果をご報告いただけたらと思いますので、その都度意見ご注文など賜ればと思います。ありがとうございます。ここまでで議事のご用意したものは終わっておりますが、その他事務局から何かありますでしょうか。

(環境政策課) 先ほど一般廃棄物のところで、「チャレンジ30・10(さんまる・いちまる)」という部分があったのですが、やはり非常に分かりにくいということもありますので、みなさんからわかりやすいキャッチフレーズをサブタイトルのような形でつけていただけたらありがたいなと考えております。いいアイデアがありましたら、ぜひご意見をいただければと思います。特に「30・10」というのが何を表しているのかということと表現することがなかなか難しい部分ですので、皆さんからのご意見もいただきながらいいキャッチフレーズにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(会長) 今ある「30・10」には頭に何がついていましたか。

(環境政策課) 今は、「残さず食べよう30・10運動」という言い方になっております。今回の「30・10」は「30」が事業系ごみの減量、「10」が家庭ごみの減量ということですので、それが分かりやすい言葉を入れていかないと皆さんに伝わらないかなと思いますので、ぜひいいアイデアをお願いしたいと思います。

(会長) よろしくお願いたします。では、ご用意した議題は終わりましたので、本日大変円滑に進行が進みましたので早く終了となります。ご協力いただきましてありがとうございました。それでは議事を終了したいと思います。

4 閉 会